

せいれいこうりんごだい
聖霊降臨後第16 主日(特定19)

とくとう
特 祷

かみ
神よ、あなたに拠らなければわたし達はみ心に

かなうことができません。どうか何ごとをする

にも、聖霊によってわたしたちの心を治め、

導いて下さい。主イエス・キリストによってお願

いたします。

アーメン

《旧約聖書続編》

しよ しゅうかい しよ
シラ書〔集会の書〕

第27章30節・28章1節から7節

いきどお いか
30 憤りと怒り、これはひどく忌まわしい。

つみびと りようほう つ
罪人にはこの両方が付きまとう。

ふくしゅう もの しち ふくしゅう
1 復讐する者は、主から復讐を受ける。

しゅ つみ けつ わす
主はその罪を決して忘れることはない。

りんじん う ふせい ゆる
2 隣人から受けた不正を赦せ。そうすれば、

ねが もと まえ つみ ゆる
願い求めるとき、お前の罪は赦される。

ひと たが いか いだ あ
3 人が互いに怒りを抱き合っているながら、

どうして主からいやしを期待できようか。

じぶん おな にんげん あわ
4 自分と同じ人間に憐れみをかえずにいて、

どうして自分の罪の赦しを願いえようか。

よわ にんげん もの
5 弱い人間にすぎない者が、

いきどお いだ つづ
憤りを抱き続けるならば、

いったいだれが彼の罪を赦すことができるか。

じぶん さいご いた てきい す
6 自分の最後に心を致し、敵意を捨てよ。

ほろび さだ し おも おきて まも
滅びゆく定めと死を思い、掟を守れ。

おきて わす りんじん たい いか いだ
7 掟を忘れず、隣人に対して怒りを抱くな。

たか かた けいやく わす
いと高き方の契約を忘れず、

たにん かんよう
他人のおちどには寛容であれ。

《使徒書》

ローマの信徒への手紙

第14章 5節から12節

5 ある日を他の日よりも尊ぶ人もいれば、すべての日を同じように考える人もいます。

それは、各自が自分の心の確信に基づいて決めるべきことです。6 特定の日を重んじる人は主のために重んじる。食べる人は主のために食べる。神に感謝しているからです。また、

食べない人も、主のために食べない。そして、神に感謝しているのです。7 わたしたちの中には、だれ一人自分のために生きる人はなく、だれ一人自分のために死ぬ人もいません。8 わたしたちは、生きるとすれば主のために生き、死ぬとすれば主のために死ぬのです。従って、

生きるにしても、死ぬにしても、わたしたちは主のものです。9 キリストが死に、そして生きたのは、死んだ人にも生きている人にも主となられるためです。10 それなのに、なぜあな

たは、自分の兄弟を裁くのですか。また、なぜ

兄弟を侮るのですか。わたしたちは皆、神の裁きの座の前に立つのです。

11 こう書いてあります。

「主は言われる。

『わたしは生きている。

すべてのひびはわたしの前にかがみ、

すべての舌が神をほめたたえる』と。」

12 それで、わたしたちは一人一人、自分のことについて神に申し述べることになるのです。

《福音書》

マタイによる福音書

第18章 21節から35節

21 そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」22 イエスは言われた。「あなたに言っておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。23 そこで、天の国は次のようにたとえられる。ある王が、家来たちに貸した金の決済をしようとした。24 決済し始めたところ、一万タラントン借金している家来が、王の前に連れて来られた。25 しかし、返済できなかったので、主君はこの家来に、自分も妻も子も、また持ち物も全部売って返済するように命じた。26 家来はひれ伏し、『どうか待ってください。きっと全部お返しします』としきりに願った。27 その家来の主君は憐れに思って、彼を赦し、その借金を帳消しにしてやった。28 ところが、この家来は外に出て、自分に百デナリオンの

借金をしている仲間に出会ったと、捕まえて首を絞め、『借金を返せ』と言った。29 仲間はひれ伏して、『どうか待ってくれ。返すから』としきりに頼んだ。30 しかし、承知せず、その仲間を引っばって行き、借金を返すまでと牢に入れた。31 仲間たちは、事の次第を見て非常に心を痛め、主君の前に出て事件を残らず告げた。32 そこで、主君はその家来を呼びつけて言った。『不屈きな家来だ。お前が頼んだから、借金を全部帳消しにしてやったのだ。33 わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか。』34 そして、主君は怒って、借金をすっかり返済するまでと、家来を牢役人に引き渡した。35 あなたがたの一人一人が、心から兄弟を赦さないなら、わたしの天の父もあなたがたに同じようになさるであらう。」

「詩編」については週報をご覧ください。

しへんだい へん せつ せつ
詩編第103編 8節-13節

きとうしょ ページ
祈祷書835頁

みなさま りんじ せつ とな
皆様は太字の節を唱えてください。 Ⅱ の後の言葉は、一呼吸おいてからよみましょう。

しゅ めぐ ゆた あわ ふか Ⅱ いか おそ いく ふか
8. 主は恵み豊かに、憐れみ深く Ⅱ 怒るに遅く、慈しみは深い

つね いきどお こころ しず Ⅱ いか つづ
9. 常に 憤る心を鎮め Ⅱ いつまでも怒りを続けられない

つみ したが Ⅱ したが ばつ くだ
10. 罪に従ってわたしたちをあしらわず Ⅱ とがに従って罰を下すことはない

てん ち たか Ⅱ かみ おそ ひと いく おお
11. 天が地より高いように Ⅱ 神を畏れる人への慈しみは大きい

ひがし にし は とお Ⅱ かみ つみ ひ はな
12. 東と西が果てしなく遠いように Ⅱ 神はわたしたちを罪から引き離される

ちち こども あわ Ⅱ しゅ あわ かみ おそ ひと うえ
13. 父が子供を憐れむように Ⅱ 主の憐れみは、神を畏れる人の上にある